

日時/会場	題目	座長(予定) 話題提供者 (予定・案)	座長および話題提供者
【研03】 9月5日(水) 16:15-18:15 全学教育棟本館1階 S10 会場名: I-4	東日本大震災後の復興・復興の現状と課題 地震工学委員会・地震被害調査小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/	座長(予定) 川島 一彦 東京工業大学教授・地震被害調査小委員会委員長 話題提供者 東畑 郁生 東京大学 富田 孝史 港湾航空技術研究所 星隈 順一 土木研究所 亀田 弘行 原子力安全基盤機構 高橋 良和 京都大学 他:被災地の地方整備局あるいは自治体	
【研04】 9月5日(水) 16:15-18:15 全学教育棟本館1階 S11 会場名: I-5	ミレニアム地震・津波にどう対応すべきか —水循環NWを事例として— 地震工学委員会・水循環NW施設災害軽減研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/	座長 竹内 幹雄 関日水コン 話題提供者 藤間 功司 防衛大学校 宮島 昌克 金沢大学 (人選中) 国交省 安田 誠宏 京都大学 鎌田 泰子 神戸大学 熊谷 和哉 厚労省 堀 宗朗 東京大学 有川 太郎 (独)港湾空港技術研究所 池本 良子 金沢大学 コメンテータ 中津川 誠 室蘭工業大学	インドネシア・スマトラ島沖地震・津波そして今回の東日本大震災と立て続けに起こった巨大地震・津波に対して、私たちは再び、人間の自然災害に対する想像力の貧しさを知ることとなった。これは既に、80年前に寺田寅彦によって指摘されていたにも関わらずである。本討論会では、歴史地震・津波の来襲を念頭に置き、①何が起こったのか、②どんな被害が予測されるのか、③どう対応すべきなのかを話題提供し、今後の私たちが辿るべき方策として、①避けるべきものは何か、②克服すべきものは何か、③適応すべきものは何か、④新しく創造すべきものは何なのかを、災害時の命の絆ともいえる水循環NW施設を念頭に置いて討論する。
【研01】 9月5日(水) 16:15-18:15 全学教育棟本館1階 C13 会場名: I-1	想定外を減らすための力学と技術 応用力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html	座長 前田 健一 名古屋工業大学・応用力学委員会幹事長 話題提供者 石川 隆司 名古屋大学大学院工学研究科付属複合材工学研究センター長 教授 稲垣 瑞穂 豊田中央研究所・車両システム研究部車両機構研究室 室長 宮田 喜壽 防衛大学校システム工学群・建設環境工学科 准教授 廣瀬 壮一 東京工業大学大学院情報理工学研究科 教授	ものづくりにおいては、様々な問題を予め想定し、それを克服するために努力がはらわれてきたが、東日本大震災後、「想定外」を改めて考えることが科学・技術分野に突き付けられた。また、想定外の力に対しても、ねばり強いシステムの構築が求められている。そこで、想定外を減らすための力学、シミュレーションとそれに関連する技術の果たす役割、挑戦すべき課題について議論する。討論会では、航空機・自動車の産業のプロジェクトにおいて、どのように問題を想定しそれを解決してきたのか、想定外にどのように対処したのかその成功・失敗例、力学、シミュレーションがどのような役割を果たしたのか、土木分野での新たな取り組みについて話題提供頂く。
【研18】 9月5日(水) 16:15-18:15 ES総合館 ES-021 会場名: III-1	大規模災害に起因する地盤環境課題に対する取り組み ～災害廃棄物の処理・有効利用、環境衛生問題について～ 地盤工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/jiban/	座長 勝見 武 京都大学 話題提供者 湯沢 将憲 国土交通省都市局 今泉 真之 農工工学研究所資源循環工学研究領域長 遠藤 和人 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員 大塚 義一 株式会社東日本支社復興プロジェクト室	今回の東日本大震災では、膨大な量の災害廃棄物や津波堆積物の処理と有効利用の問題、同じ膨大な量に達するとみられる放射性物質で汚染された土壌や廃棄物の処理、広域地盤沈降や冠水の長期化による環境衛生問題など、様々な地盤環境課題が顕在化している。このような状況を鑑み、本研究討論会では「緑地造成等への災害廃棄物の活用に関する取り組み(鈴木氏)」、「農用地における放射性物質による汚染状況およびその対策(今泉氏)」、「災害廃棄物への対応に関する取り組み(遠藤氏)」等について話題提供を頂き、学術的実務的な今後の取り組みの方向性について議論する。
【研07】 9月5日(水) 16:15-18:15 ES総合館 ES-024 会場名: III-3	岩盤斜面災害の防災・減災・避災を目指して ～斜面災害ハザードの特定と影響評価～ 岩盤力学委員会・斜面ハザード評価研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/rm/	座長(予定) 進士 正人 山口大学大学院理工学研究科 話題提供者 西村 強 鳥取大学 (予定) 島内 哲也 明治コンサルタント 日外 勝仁 土木研究所 三木 茂 基礎地盤コンサルタント 小俣新重郎 日本工営 川北 稔 ドーコン 中井 卓巳 ㈱アーステック東洋 大西 有三 京都大学	岩盤斜面災害は、脆弱な日本列島においてどこでも発生するリスクを有しているといわざるを得ない。それに合わせ、地球温暖化の影響も無視できない状況となり、それらによる影響と考えられている風水害、土砂災害の大規模化の中においても、共生して生活活動を継続していかなければならない状況となりつつある。このような状況下において、施設設計などのハード対策には限界がある。研究討論会では、発生メカニズムの解明が進んでいない岩盤斜面に対し、安全・安心な住民生活を維持するための、斜面崩壊シナリオの確立とそれに基づく被害影響評価解析の考え方を提案し、研究会の参加者と議論を行いたい。
【研09】 9月5日(水) 16:15-18:15 工学部1号館 1-132 会場名: VI-2	地下空間の防災・減災と災害時避難 地下空間研究委員会 http://www.jsce-ours.org/	座長 戸田 圭一 京都大学防災研究所 話題提供者 石垣 泰輔 関西大学教授 工藤 康博 土木学会地下空間研究委員会顧問 土田 昭司 関西大学教授 馬場 康之 京都大学防災研究所准教授	大地震に伴う津波や激しい集中豪雨による浸水、あるいは大規模火災などにより、地下空間において大きな被害が発生することは十分予想される。災害時の地下空間の安全性や危険性についてきちんと理解したうえで、地下空間の防災・減災について考えていく必要がある。本研究討論会では、災害時の避難に焦点をあてて、地下空間での人間の行動や避難についての最近の研究成果について話題提供をいただき、それらをもとに、今後取り組むべき課題やその解決策について参加者全員で総合的な議論を展開しようとするものである。
【研13】 9月5日(水) 16:15-18:15 全学教育棟本館3階 C35 会場名: VII-1	震災後の土木広報戦略 ～地域社会と共築する幸せづくり～ 社会コミュニケーション委員会 http://committees.jsce.or.jp/publicity/	座長 山崎 隆司 社会コミュニケーション委員会委員長 話題提供者 大橋 幸子 国土交通省 国土技術政策総合研究所 緒方 英樹 社会コミュニケーション委員会幹事長 小松 淳 日本工営情報基盤センター(Web部会長) 高橋 薫 土木学会100周年戦略会議委員 中野 朱美 (財)日本ダム協会	従来の「知らせる」一方的な広報では、住民と地域社会の向上に寄与することについてはあまり触れられてこなかった。また、広報の主体と居場所が中央や行政といった枠組みの中にとどまる場面が多く、土木の役割が利用者側で論じられるという認識や方向性が見えない。しかし、これまで標語のように飛び交っていた「安全・安心」は、3.11以降、まさに土木と社会が共有する願いである。被災者からも聞かされた「普通の暮らし」を支え続ける土木の役割を社会全体の価値とする意味において、1つの大きなエポックととらえたい。「日々の暮らしを支え、命と財産を守る社会資本整備の役割と価値」。言葉や理念で届かなかったこのフレーズが、わがこととして住民に捉えられる機会でもある。安全・安心な「ふつうの暮らし」を支えて経済・文化の発展に尽くす土木の役割は、東日本大震災後、さらに「みんなと一緒に生きている社会をよくしていく」という切実な願いを実現化していく方向性にある。土木の究極の目標であり原点は、モノをつくり、サービスの提供だけではなく、人間の幸せづくり(安全・安心な社会づくり)にある。他の人の幸せづくりに尽くすという利他行に通底する土木の原点を認識した上で、社会や住民と共有して信頼関係を築き、健全で良好な社会づくりに貢献することが、これからの土木広報にとって肝要となるだろう。そのためには、住民や若年層に対する土木リテラシーの促進がより必要となる。「市民」とは、ルソーいわく「公共の事項に関心を持つもの」とする。住民が社会のことを考え、参加・行動する「公民」として生きるためのリテラシー(素養)促進こそ新たな土木広報の道筋にあると考える。たとえば、土木に価値を見いだせない人たちのコミュニケーションを重視するためにも、地域に身近な題材やテーマで、社会や住民の理解・信頼を促していきたい。本テーマは土木学会100周年に向け、2011研究討論会「土木の広報戦略～知らせる」から共築へ」を踏まえてさらに議論を重ねていきたいと考えている。

防災をテーマとした研究討論会

日時/会場	題目	座長 話題提供者	座長および話題提供者
【研19】 9月7日(金) 12:40-14:40	想定外の作用に対する構造性能評価・設計手法の考え方 構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm	座長 井面 仁志 話題提供者 石川 隆司 香月 智 須藤 敦史 広兼 道幸 本城 勇介 山口 和範	香川大学工学部・教授 名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・教授 防衛大学校理工学研究所地球環境科学専攻・教授 岩田地崎建設株式会社 関西大学大学院総合情報研究科知識情報学専攻・教授 岐阜大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・教授 中日本高速道路株式会社
全学教育棟本館1階 C15 会場名: I-3	東日本大震災では、地震の規模、津波の大きさ、被災範囲の大きさ、原子力発電所の事故等、これまで想定していなかった規模の自然災害により、想定以上の被害を受けました。この東日本大震災以降、土木構造物の設計、防災対策、被害想定などにおいて「想定外」を無くすことが技術者の役割だとまで言われてきております。そこで、本研究討論会では、①機械設計、②信頼性設計・評価、③維持管理、④防災教育、⑤リスク評価、⑥国家賠償の観点から改めて各分野における「想定外」に対する考え方、対策を通じて「想定外」の概念に関して議論するとともに、想定外作用に対する今後の「構造物の性能設計のあり方」、「防災・減災」、「維持管理・復旧」のための構造物性能設計・評価のあり方、土木分野以外の学問領域の概念の導入も視野に入れ、大会参加の皆様と議論を行います。		
【研25】 9月7日(金) 12:40-14:40	放射性汚染廃棄物対策と土木技術の役割 -早期の帰還と復興を目指して- 放射性汚染廃棄物対策土木技術特定テーマ委員会 エネルギー委員会 http://committees.jsce.or.jp/enodob/	座長 大西 有三 話題提供者 河西 基 他(未定)	京都大学副学長 電力中央研究所 地球工学研究所 バックエンド研究センター長
全学教育棟本館3階 C35 会場名: VII-1	東日本大震災に伴い発生した福島第一原子力発電所の未曾有の事故に伴い、発電所の事故収束・廃止措置に向けた政府・東電を中心とした取り組みと共に、広範囲にわたり汚染された地域の早期の環境修復を図ることにより避難されている方々の早期の帰還と地域の復興・再生を目指して、国や民間、学協会などの関係各機関一丸となった取り組みが進められている。土木学会においても、特に、周辺汚染地域において除染後に出てくる大量の汚染された廃棄物(以下、放射性汚染廃棄物)を対象とし、最終処分場を持つべく前段階の措置として、当面の仮置き～中間貯蔵施設で保管するという国の方針を着実に実現し、早期の環境修復・帰還につなげていくことを支援するための土木技術的な観点からの検討を実施している。本討論会では、それらを含む国内での検討状況や今後の土木工学としての取り組みの方向性について議論する。		
【研21】 9月7日(金) 12:40-14:40	少子高齢化社会における津波からの避難 -一生を分けるものは何か- 地震工学委員会・津波避難調査小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/	座長 後藤 洋三 討論者・テーマ1: 三上 卓 これからも「津波でん でんこ」か? 山本 一敏 田中 努 鈴木 光 佐藤 誠一 柳原 純夫 討論者・テーマ2: 自動車避難は本当 にダメか? 長谷川庄司 村上一ひとみ 宇治田 和 滝田 和明 小林 勝哉 コメンテーター	東京大学地震研究所 株式会社日本技術開発 保全・耐震・防災事業部主査 パンフィックコンサルタンツ㈱ 交通基盤事業本部 構造部技術課長 株式会社日本技術開発 保全・耐震・防災部長 (財)消防科学総合センター 防災図上訓練指員 日本工営㈱ 流域・防災事業部 地盤環境部次長 ㈱奥村組 東日本支社 土木技術部技術担当部長 (独)国際協力機構 地球環境部 防災第二課特別嘱託 山口大学大学院 准教授 ランドブレイン㈱ 都市・政策グループ 主任研究員 静岡県危機管理部 危機情報課長 名古屋危機防衛部 防災室主査
全学教育棟本館1階 S11 会場名: I-5	私たちは、「東日本大震災津波避難合同調査団(山田町・石巻市担当)」として約20名で、一次避難所や仮設住宅を訪問し、約550名の被災者の方から避難の実態をヒヤリングしました。さらに、紙媒体によるアンケートで約800名の方から回答を寄せていただきました。私たちは、この多くの被災者の実体験から教訓をとりまとめようとして、八方美人の作文では到底済ますことの出来ない、判断の分かれる難しい問題に突き当たりました。1つは「車避難」の可否であり、もう1つは「津波でんでんこ」、つまり津波の時は親もまわらず自分の身をを守るためにでんでんに逃げなさいと言うことの可否であります。そこで、この研究討論会の機会に、この2つの課題をディベート形式で討論して、皆さんと問題を共有してみようと考えました。登壇者は昨年の大震災以来、それぞれ10回程度は現地を訪れ数十名の被災者から避難の体験をヒヤリングしてきています。ですから、2つのテーマの問題点の裏表をそれぞれが良く理解していますが、ここでは1つの立場を明確にして相手の立場を否定する議論をします。そして、どちらの説得力があったか、会場から支持の拍手を募り、勝ち負けを決めていただきます。さらに、東海・東南海の自治体の防災担当の方から、コメントをいただく予定です。		
【研20】 9月7日(金) 12:40-14:40	社会基盤施設の地震安全について考える 「ポスト3.11」における社会基盤施設の地震安全の論理構築 ~「想定外」に真摯に向き合うために~ 地震工学委員会・耐震基準小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/	座長 中村 晋 話題提供者 秋山 充良 高橋 良和 野津 厚 本田 利器 室野 剛隆	日本大学工学部土木工学科 早稲田大学 広島大学大学院 (独)港湾空港技術研究所 東京大学大学院 (公財)鉄道総合技術研究所
全学教育棟本館1階 S10 会場名: I-4	1995年兵庫県南部地震から2011年東北地方太平洋沖地震まで、被災をもたらした様々な地震より多くの強震記録が得られ、設計地震動の強さを超える記録も多く観測されている。2011年東北地方太平洋沖地震では広域災害の復旧・復興に社会的な重要性が再認識され、設計事象として十分に考慮されてこなかった津波への対応の必要が認識された。社会基盤施設に対して、設計時から廃棄にいたるライフサイクルの中での地震安全の考え方、さらに設計を止まる地震作用に対する安全性の考え方を社会に対して総合的に明示することが必要となっている。ここでは、社会基盤施設の地震安全の考え方について共通認識の形成を目的とした討論を行う。		
【研15】 9月7日(金) 12:40-14:40	コンクリートができることは何か? ~震災で直撃した論議への対応~ コンクリート委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/index.html	座長・コーディネーター 久田 真 パネリスト 丸山 久一 (予定) 岩波 光保 早坂 俊広 未定 未定	東北大学大学院・工学研究科・土木工学専攻 長岡技術科学大学 港湾空港技術研究所 宮城県 JR東日本 ゼネコン
全学教育棟本館3階 S30 会場名: 本部-1	東日本大震災は、土木技術者に対してインフラの復旧や復興をどう進めていくか、巨大津波に対して構造物の設計がどうあるべきか、眼前にある多量の震災廃棄物をどのように処理・有効活用すべきか、など、多くの課題を我々に課した。本討論会では、①被災したコンクリート構造物(道路、鉄道、港湾構造物など)をどのように復旧させ、今後どのように維持管理していくべきか、②構造物の設計時の津波外力の取扱いについて、コンクリート委員会での検討状況、③がれきの処理と有効利用の考え方、さらに設計を止まる地震作用に対する安全性の考え方を社会に対して総合的に明示することが必要となっている。ここでは、「コンクリートができることは何か?」を討論したい。		
【研30】 9月7日(金) 12:40-14:40	社会安全の実現に向けた技術者の役割 社会安全研究会	座長 大石 久和 話題提供者 広崎彰太郎 堀井 秀之 岩田 孝仁	(財)国土技術研究センター理事長 日本工学会副会長 東京大学教授 静岡県危機管理部危機報道監
ES総合館ES-022 会場名: III-2	現代科学技術は専門分化によって発展し、また現代社会は効率性確保と、競争性確保のために巨大化、複雑化という進化を続けてきた。しかし一方で安全性の観点からは、それがいかに脆弱であるかを思い知らされたのが東日本大震災と福島第一原発事故であった。ここで教訓をいかに生かすべきか? 我が国がおかれた厳しい自然環境、また変化する国際環境の中でいかにして社会安全を確保するか? のために広い視野を持った技術者の養成と工学連携が提唱されているが果たして問題を解決できるか? 土木学会の役割は何か? そして具体的な運動はいかにあるべきか等を、識者、自治体、工学会、土木技術者からなる代表者による発表と質疑によって深め、行動につなげて行く。		
【研28】 9月7日(金) 12:40-14:40	震災復興と低炭素・循環型社会の形成(仮題) 地球環境委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/global/index.htm	座長(予定) 山田 正 話題提供者 松下 潤 (予定、案) 他2~3名	地球環境委員会委員長、中央大学理工学部教授 地球環境委員会副委員長、芝浦工業大学システム工学部教授
全学教育棟本館3階 C33 会場名: VII-3	2011年3月11日に発生した東日本大震災からの被災地の復興を考えるにあたり、気候変動軽減策・適応策を推進しながら、中長期的な視点から生産・消費・廃棄・再生に係る全ての段階を通じて、これまでとは全く異なる低炭素・循環型社会を構築する必要があると考えられる。また、これらの活動を通じて得られる知見と技術を、既存都市に適用していくことも重要である。については、 ▽低炭素・循環型社会の形成推進に関する分野横断的体制の構築 ▽土木・建築関係資源循環サイクル(生産・消費・廃棄・再生)の推進 ▽原発事故による広域的・長期的な低レベル汚染の実態とその効率的除去 ▽エコシティの形成におけるモデル・プロジェクトの推進 について討論する研究討論会「震災復興と低炭素・循環型社会の形成」を開催する。		
【研29】 9月7日(金) 12:40-14:40	ポスト東日本大震災時代における「安全な国土」とは -地震・津波対策だけで地域/社会を守れるのか- 「安全な国土への再設計」支部連合	座長 林 良嗣 話題提供者 甲村 謙友 萩原 諺 奥村 誠 山田 正 辻本 哲郎 米山 望 一井 康二 大年 邦雄 塚原 健一	名古屋大学・教授(支部連合代表) (独)水資源機構・理事長(支部連合副代表) 北海道大学・教授(北海道支部TF座長) 東北大学・教授(東北支部TFメンバー) 中央大学・教授(関東支部TF座長) 名古屋大学・教授(中部支部TF座長) 京都大学・准教授(関西支部TF幹事長) 広島大学・准教授(中国支部TF座長) 高知大学・教授(四国支部TF座長) 九州大学・教授(西部支部TF幹事長)
ES総合館 ESホール	災害列島と呼ばれてきた我が国では、これまでも安全な国土を形成するために、防災対策を推進してきたが、東日本大震災により我が国社会が蒙った未曾有の被害は、これまでの「安全な国土」という概念の見直しをも迫っている。この大震災を機に各支部に設置された「安全な国土への再設計」支部タスクフォース(TF)は、地域ごとの社会構造や災害特性などを踏まえた災害アセスメントを行い、自分たちの地域を「安全な国土」へ再設計するための取り組みを始めている。本討論会では、各支部TF代表者から各地域における災害リスクについて報告するとともに、パネルディスカッションを行いポスト東日本大震災時代における「安全な国土」の再定義を行う。		

防災をテーマとした研究討論会

日時/会場	題目	座長(予定) 話題提供者 (予定)	座長および話題提供者
【研23】 9月7日(金) 12:40-14:40 全学教育棟本館1階 C13 会場名: I-1	FRPによる構造物の補強設計の将来像 —これからのより良い設計法を探る— 複合構造委員会・FRPによるコンクリート構造の補強設計小委員会 http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~ssaito/jsce/fukugou/	座長(予定) 佐藤 靖彦 上原子晶久 Jian-guo DAI 金久保利之 小林 朗 中村 一史	北海道大学 弘前大学 The Hong Kong Polytechnic University 筑波大学 日鐵コンポジット 首都大学東京
【研22】 9月7日(金) 12:40-14:40 工学部2号館 2-241 会場名: II-4	流水型(穴あき)ダムの新しい展開と今後の可能性 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/	座長 話題提供者 (予定) 小松 利光 池田 駿介 渡邊 康玄 鈴木 英一 角 哲也	九州大学工学研究院 (株)建設技術研究所 北見工業大学 北海道大学 京都大学防災研究所
【研27】 9月7日(金) 12:40-14:40 ES総合館 ES-021 会場名: III-1	国際リニアコライダ(ILC)施設の土木工事に関するガイドラインの策定 岩盤力学委員会・国際リニアコライダ施設の土木工事に関する指針策定小委員会 http://committees.jsce.or.jp/rm/	座長 話題提供者 近久 博志 宮原 正信 真下 英人 西本 吉伸 岩尾 哲也 秋田 勝次 岡部 浩正 来山 尚義	山口大学 高エネルギー加速器研究機構 土木研究所 電源開発 高速道路総合技術研究所 鉄道建設運輸施設整備支援機構 日建設計 復建調査設計
【研24】 9月7日(金) 12:40-14:40 ES総合館 ES-024 会場名: III-3	シールドトンネルデータベースの構築と運営 トンネル工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/tunnel/	座長 話題提供者 杉本 光隆 西田与志雄 牧角 修 新井 泰 木下 茂樹	長岡技術科学大学 大成建設 国土交通省 東京地下鉄 奥村組
【研16】 9月7日(金) 12:40-14:40 工学部3号館 3-321 会場名: IV-1	モビリティ首都を目指すグレートナゴヤのインフラ整備とITS 土木計画学研究会 http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtm	座長 話題提供者 森川 高行 天野 肇 菊地 春海 杉浦 孝明 中村 英樹	名古屋大学大学院環境学学術研究科教授 ITS Japan 専務理事 国土交通省 中部地方整備局道路部長 株式会社三菱総合研究所社会システム研究本部 主任研究員 名古屋大学大学院工学研究科教授
【研17】 9月7日(金) 12:40-14:40 工学部1号館 1-121 会場名: VI-1	土木情報学の創成—BIMからCIMへ、ICTの土木への展開 土木情報学委員会 http://committees.jsce.or.jp/cceips/	座長 話題提供者 蒔苗 耕司 冨人 龍大 矢吹 信吾 上田 敬 吉清 孝 小松 淳	宮城大学 イゼイ/ラボ 大阪大学 (財)道路新産業開発機構 鹿島建設 日本工営
【研26】 9月7日(金) 12:40-14:40 工学部1号館 1-142 会場名: VI-6	公共事業の調達制度改革を考える 建設マネジメント委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/cmc/index.asp	座長 話題提供者 ハナルティスセッション 木下 誠也 小澤 一雅 合計5~6名 (予定)	愛媛大学 東京大学 行政、海外協力関係機関、建設会社、建設コンサルタント等から

防災以外をテーマとした研究討論会

日本では、2000年に土木学会から「連続繊維シートを用いたコンクリート構造物の補修補強指針」が刊行されて以来、そこから数年に渡りFRPを利用した補強設計指針が各事業体から刊行された。それらの指針類は、当時における最新の知見を取り入れているものの、大きな改訂作業などは行われていない現状にある。一方、海外では、EU、オーストラリア、香港などで近年、補強設計指針がとりまとめられている。それらは、最新の知見を活用しているのみならず、これまでの指針類の優れた設計法を積極的に取り入れている。以上より、日本の補強設計指針は海外のものよりも大きな遅れを取り、なおかつ設計法が現況に即していないことが危惧される。一方で近年、FRPを鋼桁などの補修・補強に活用する事例が次第に報告されるようになってきている。本研究討論会では、そのような指針類が抱える課題や新しい補強方法について知識の共有化を図り、これからのあるべき補強設計の具体像について議論する。

流水型(穴あき)ダムは、普段は水を貯めず、土砂や魚などの水生動物も自由に往き来可能という連続性が保たれ、水質の悪化もなく環境に優しいことから近年本格的な洪水制御施設としてその機能が見直され、いくつかの施工例も見られるようになってきた。更に、最近の研究により連続性機能の向上、小規模な複数個の流水型ダム群の河道内遊水池としての洪水制御効果、直列配置のダム群のカスケード方式による効率的洪水ピークカット、天然ダムの崩壊による段波への対策、深層崩壊による大量の生産土砂対策、将来の漏水対策、流木対策等の面で大きな展開が図られている。それらの成果を話題提供し、今後の新たな可能性を議論する。

本研究は、ILC施設の土木工事の施工に関する課題や問題点に対して、現時点で考えられる対応策をガイドラインとしてまとめようとするものです。3年間の委員会ですが、平成22年度は、国際リニアコライダ小委員会の研究成果である「加速器建設の土木技術に関する調査研究報告書」を基にして、今後の活動の方向性や方針を検討しました。平成23年度からは、その結果を踏まえ、それぞれの課題ごとに作業部会を立ち上げ、課題解決のための検討を行っています。今回の研究討論会では、ILC施設の現状について説明を行うとともに、作業部会の活動の中間報告を行い、土木技術に関する課題や問題点とガイドライン策定に向けた方向性についての議論を予定しております。

土木構造物の技術情報をデータベース(DB)化する意義・必要性は、誰もが認識していると思われるが、完成前の技術情報は、データを提供する場が無く、散逸してしまうことが多かった。しかし、日本の土木技術の維持、効率的な維持管理を実現するためには、今こそ、こうした技術情報のDB化を推進していく必要がある。そこで、トンネル工学委員会では、シールドトンネルを対象としたDB構築のための検討を行い、平成24年度からその運営を開始した。本研究討論会では、シールドトンネルDBの検討経緯と、その運営状況を紹介するとともに、シールドトンネルを対象とした既存DBの紹介を行い、今後のDBのあり方について、討論を行う。

ITS先進国である日本の中でも、交通の要衝であり、自動車関連産業が集積している名古屋大都市圏(グレートナゴヤ)は、先進的モビリティの研究開発から社会実装までを世界に先駆けて行う「モビリティ首都」を目指そうとしている。本討論会では、グレートナゴヤにおける、運輸・交通、エネルギー、環境、防災、福祉、まちづくり、経済活性化などの課題解決を念頭に、交通インフラ、情報通信インフラ、車両、デバイス、制度などのあり方と、「モビリティ首都」の考え方について議論を行う。

急速な情報通信技術(ICT)の進歩に伴い、建設分野でも様々なICTの導入が進みつつある。また最近ではBIMやCIMといった情報モデルを核とした多次元かつ統合化された情報システムへの発展も考えられるようになってきた。このようなICTの進歩の中で、土木工学における情報科学技術の位置づけと体系化を図り、それを『土木情報学』として、技術者教育や学術研究、そして現場へと生かしていくことが求められる。本研究討論会では、土木情報学の体系化に関する活動成果を紹介するとともに、土木情報学の必要性、その体系、今後の展開について、最新の技術動向も踏まえながら、産官学それぞれの立場からの意見をともに討議を行う。

建設マネジメント委員会では、平成18年4月に「公共調達制度改革を考える～土木技術者の信頼回復を目指して～」、平成19年度に計12回のシリーズシンポジウム「公共調達制度改革を考える」を実施し、平成21年度から毎年「公共調達シンポジウム」を開催している。また、平成22年度から公共調達制度評価特別小委員会を設置し、平成23年8月には公共事業改革プロジェクト小委員会が報告書を取りまとめ、「公共事業調達法」を提案した。本討論会では、今後の公共事業の調達制度改革の課題と推進方策について、種々の立場から議論する。